

# 来週の『売り物記事』はこれ

2019年5月17日号

毎日新聞東京本社 編集編成局・販促宣伝

黒潮の楽園を残したい

和歌山・天神崎 ナショナルトラスト運動の45年

19日(日)



自然保護とナショナルトラストの課題に迫りました。

自然環境を無理な開発から守るために市民が土地を買い取るナショナルトラスト運動。その第1号法人に認定された「天神崎の自然を大切にする会」(和歌山県田辺市)が運動を始めて45年となります。苦難を乗り越え、今もリーダーとして活動する玉井済夫さん(80)を通して、日本の自然保護とナショナルトラストの課題に迫りました。



詩人アーサー・ビナードさん 「原爆の囀」を紙芝居に

夕刊特集ワイド 20日(月)

画家、丸木位里、俊夫妻の連作「原爆の囀」をもとに、米国出身で広島市に暮らす詩人、アーサー・ビナードさん(51)が、独自の物語をつむいで紙芝居「ちっちゃい こえ」を完成させました。どんな物語に仕上がったのか。なぜ「紙芝居」という日本伝統の表現方法を選んだのか。ビナードさんに紙芝居を演じてもらいながらインタビューしました。

園児散歩の安全をどう守る？

くらしナビ面 21日(火)

大津市で散歩中の保育園児の列に車が突っ込み、2人が死亡した事故は、全国の保育関係者や保護者に衝撃を与えました。現場の保育士らの対応に問題はなかったとされますが、それでも事故は起きました。園庭がない保育所の開設も国が認めていること、保育施設周辺の道路の安全対策が十分でないことなど、さまざまな問題が背景にある中、子どもを守るための各地の取り組みを取材しました。

若いがん患者の生殖機能温存を

社会保障面 22日(水)

「AYA世代」と呼ばれる若年層(15~39歳)のがん治療で、大きな課題の一つが、生殖機能を温存して子どもを産める可能性をどう残すかです。医療技術の進歩で精子や卵子を凍結保存して、抗がん剤や放射線治療後に子どもをもうけることもできるようになりましたが、公的保険の対象にはならないため経済的負担が大きく、助成制度もまだ限られています。元患者らは「将来への希望を持ち、闘病の支えになる」と支援の充実を訴えます。

## マンモス復活研究に挑む

科学環境部 23日(木)

大昔に絶滅したマンモスの復活計画が国内外で進んでいます。近畿大は今年3月、2万8000年前のマンモスの化石から取り出した細胞核で、細胞分裂の前兆が観察できたと発表。米国でも近年注目のゲノム編集技術による研究が計画されています。しかし今後研究を進めるには近縁種のアジアゾウの卵子や成体を使う必要があり、倫理的問題が避けられません。マンモス復活に向けた研究の現状と課題を報告します。

## ゲノム編集食品の表示ルール検討始まる

総合面 24日(金)

遺伝子を効率よく改変する「ゲノム編集技術」を使った食品の表示について、消費者庁は有識者会議でヒアリングを始めます。ゲノム編集食品は今年中に流通が始まる見通しで、消費者庁が表示のルールを検討しています。消費者が安心して食品を選べる表示になるのかどうか注目されます。

## 共働き向け住宅 動線短く、家事時短

くらしナビ面 25日(土)

時間を効率的に使いたい共働き世帯のニーズに応えようと、家事の手間を軽減する工夫を凝らした家づくりが広がっています。各ハウスメーカーは、台所や洗濯機置き場などの配置を見直すことで、家事動線を短くした戸建て住宅のプランを提案します。マンションや賃貸住宅でも工夫できるよう、整理収納のプロに、家具の配置を変更するなどのコツを聞きました。

## 「トランプ流」とどう付き合うか

オピニオン面 25日(土)

トランプ米大統領が経済や安全保障分野で中国などとの対決姿勢を強めています。対中関税の大幅引き上げは世界経済に悪影響を与えかねません。米国の矛先は日本にも向いています。「米国第一主義」を強めるトランプ流外交に、対米一辺倒との批判もある日本はどう向き合うべきなのでしょう。トランプ氏の来日(25~28日)を前に日米の識者に論じてもらいます。